

10ページで感じる
きもちにいい絵本

「喜」



文：吉井春樹
絵：maki



だれかが
よろこんで
いるとき。



あなたは
ふたつのなかから
すきなほうを
えらべます。



うらやましがる。



いっしょに
よろこぶ。



大好きなひとなら
すなおにうれしいけど。



きれいなひとだと
なんだかくやしい。



だとしても
そのひとが喜んでると
ぼくがくやしいのは
あんまりかんけいない。



どちらかといえは
ぼくも喜べたほうが
いいきもする。



ぼくらは よろこべる。



じぶんのしあわせも、
たにんのしあわせも。

そのよろこびは
ぼくのものであり
みんなのものだから。



1976年秋田県生まれ。
ココロの景色を、言葉やパステルで描く。
<http://ameblo.jp/cheerymaki/>

「喜」
誰かと一緒に喜べる、しあわせ。
ココロを彩る色を表現してみたいと思いました。
「しあわせ」を選ぶかどうかは、いつだって自分次第。
そのことに気がつく、お手伝いができたら嬉しいです。

吉井さんの言葉に
イラストを添えさせていただく喜びを
わかちあってくださった、みなさまに感謝です。

*** *** ***

～あとがき～吉井春樹

この作品を最後まで読んでくださって、
そして、ダウンロードまでしてくださって、
本当にありがとうございます。

今回は第1回の「悲」から、
「嬉」「淋」「好」、そして「喜」

3月11日の東日本大震災を受けて、
被災された方も、その周りの方も、
そして自分自身をも、含めて、感じたことです。

いつもいつも心の色は、
自分の自由に選択できるみたいです。

同じ出来事があったとして、
それを、何色に変えられるかは、自分次第。

そして、「喜」という気持ちの色は、
他人から染み込んで混ざることもあるし、
自分から他人に対して注ぐこともできる。

いくつにもいくつにも繁殖していく、
ふしぎな感情のような気がします。

今回、ちありまきさんのイラストは、
喜びっていう気持ちの持っている、
重なることで温かさが伝っていく、
その気持ちの流れみたいなものを
やさしくやさしく表現してもらいました。

喜びを必要としている人にこそ、
喜びに溢れている人にこそ、
この羽のような気持ちと気持ちが
舞い降りてくれるような気がします。

<プロフィール>

1977年愛媛県生まれ。「コトバ is プレゼント」をコンセプトにしたコピーライター出身の作家、
詩人、エッセイスト。やさしく短い文章で、日常の小さな幸せを表現したメッセージ本を多数
出版。

年代問わず女性に幅広い支持によりロングセラーとなり、某国民的アイドルのラジオ番組や、
韓流スターのライブイベントで朗読されたり、人気モデルのブログで紹介されたりと、
著名人にファンも。毎月発行のCDブックマガジン「月刊うれしび」も好評。

■著書「しあわせスイッチ」（ディスカヴァー21）「いつもよりがんばるあなたに。」

「しあわせが、しあわせを、みつけてきた。」（以上アルファポリス）

「好きのしるし」（PHP研究所）などがある。

写真ブランド「SNAP-SHOT」とのコラボ作品として

大手雑貨店で全国展開中のフォトポエムカードも人気が高い。

<http://haruki-yoshii.com>

また、自分らしい言葉力UPトレーニング『コトトレ』主宰として
多くのしあわせな言葉家や作家やアーティストを輩出。

<http://kototore.net>